

「読書感想文コンクール」を 実施しました

葛飾区では、教育振興ビジョンの取組の一つとして、児童・生徒の読書活動を推進するために「読書感想文コンクール」を実施しています。

今年度は、小学生1万5千385点、中学生4千677点の応募があり、その中から、次の最優秀賞・優秀賞・佳作が選ばれたほか、320人が入選しました。

■小学校低学年の部

最優秀賞

齋藤百々花(さいとうももか・よつぎ小1年)

優秀賞

新井 千晶(あらいちあき・北野小1年)

森 健太郎(もりけんたろう・花の木小2年)

佳作

大山 虎徹(おおやまこてつ・東金町小2年)

岡庭 紗稀(おかにわさき・西亀有小2年)

影山 結子(かげやまゆいこ・川端小1年)

■小学校中学年の部

最優秀賞

上本 悠来(あげもと はるき・堀切小3年)

優秀賞

猪又球四朗(いのまたきゅうしろう・細田小4年)

村田 真優(むらた まゆ・亀青小4年)

佳作

大西 凜音(おおにしりんね・住吉小4年)

金 佳音(きんかおん・南奥戸小3年)

沼田 啓駿(ぬまた けいしゅん・花の木小3年)

■小学校高学年の部

最優秀賞

元吉 朔也(もとよし さくや・上平井小6年)

優秀賞

井上 和音(いのうえかずね・青戸小5年)

中田 美優(なかた みゆう・東綾瀬小6年)

佳作

小菅 一真(こすが かずま・半田小5年)

長妻あおば(ながつま あおば・東金町小5年)

平山 絵理(ひらやま えり・金町小6年)

■中学生の部

最優秀賞

橋本 麗(はしもと れい・新小岩中1年)

優秀賞

佐藤 かえで(さとう かえで・四ツ木中2年)

須田 裕里加(すだ ゆりか・青戸中3年)

松田 那津実(まつだ なつみ・新宿中1年)

佳作

石井明日香(いしい あすか・水元中3年)

加藤 有紀(かとう ゆき・高砂中1年)

川嶋 夏翠(かわしま なつみ・桜道中3年)

橋本 僚(はしもと りょう・中川中3年)

溝上菜々子(みぞかみ ななこ・青戸中2年)

森 菜瑞奈(もり なずな・亀有中1年)

(敬称略・同一賞内は氏名の五十音順)

指導室 ☎(5654)8469



中学生の部・最優秀賞

「カンナちゃんの奇跡」

新小岩中学校1年 橋本 麗

私は三歳の頃から、1型糖尿病という病気にかかっています。食事をする時などには、注射をうたなければいけません。具合が悪くなれば授業中でも、補食を食べます。約九年間病氣と付き合っています。この本を読むまでは、注射をうつの面倒だし、何で自分は病氣にかかってしまったのだろう、自分は不幸だと思っていました。

カンナちゃんの奇跡は、医学の常識を超えた感動の実話です。主人公の女の子カンナちゃんが誕生した時から、小学生になった時の事までが書かれています。カンナちゃんは、食べた物が肺に入ってしまう喉の障害によって、食べることも、水を飲むこともできません。このままではカンナちゃんの命が危ないので、手術に踏み切ります。しかし、この手術によってカンナちゃんは、命と引き換えに大切な声を失ってしまいました。

それでもカンナちゃんは声を出そうと、一人で頑張っていたのです。そんなカンナちゃんに奇跡が起きました。幼い命が起こした奇跡とは……私はこの本に出会い、病氣、障害とは私達にとつてどのようなものかを、考えることができました。

カンナちゃんの命に危険があり、命と引き換えに声を失った手術を行ったのは、カンナちゃんが三歳の時の五度目の手術です。私が1型糖尿病にかかったのも三歳の時です。しかし、私は注射をうち、血糖値のコントロールさえすれば、病氣にかかっている人と同じように、生活することができそうです。命の危険や、声が出せなくなる心配も今はありません。命と引き換えに声を失う事など、考えた事はありませんでした。そんな中私は、「命と声どちらの方が大切なのだろうか」という疑問が浮かんできました。もし私が、この本に出会う前に、命と声どちらが大切か聞かれたら、迷わず命だと答えていたと思います。生きていなければ、話すことはできません。

しかしこの本に出会い、命と引き換えに声を失ってしまった、カンナちゃんの辛さを私は知っている。今はもう命も声も同じくらいとても大切だとしか答えられません。声を失った時カンナちゃんは、どう思っていたのでしょうか。命と声どちらの方が大切だと思ったのか、私はとても気になります。

カンナちゃんは、一生声が出せない手術を受けましたが、手術を行った年のクリスマススイープに「あ・い・う・え・お」としゃべったのです。私にはそんな大きな奇跡が起こった事があります。ですから奇跡が起きたなんて信じられませんでしたが、本当にカンナちゃんに奇跡は起こったのです。

医学の常識を超えた方法で、カンナちゃんの声を出していました。家族や友達、病院の先生達の支えだけではなく、声を出したいという、カンナちゃんの強い思いがあったから、奇跡は起こったのではないのでしょうか。カンナちゃんの奇跡は起こったのではなく、カンナちゃんが奇跡を「起こした」のかも知れません。

しかし、奇跡なんて起こらなくても、生きていくだけで幸せです。病氣にかかっているから不幸だと思っていた私に、カンナちゃんは教えてくれました。この世界には、勉強したくてもできない人がいて、食事をしたくてもできない人がいて、生きてくても生きられない人がたくさんいます。私は病氣でも勉強をし、食事をし、生きることができそうです。私はとても幸せです。

私は病氣を持っていますが、悪いことばかりではありません。私が毎日何事もなく過ごせるのは、病氣だからこそ少しの変調も見過ごさず、健康管理をしているからだと思っています。

授業中に班で話し合いをした時、少し具合が悪くなり友達に、「補食を食べるね。」と私が言うと、「大丈夫? 先生に言つて廊下で食べさせてもらおう?」

と私の事を心配してくれました。そんな風に友達が心配してくれたら、病氣になつていなければわからなかった、友達の優しさを知らずにはいられず、病氣のおかげです。

私にとつて一番身近な存在は病氣です。家族よりも友達よりも誰よりも一緒にいて、どんな時も私の側にくれます。病氣とは闘う時だってあります。それでも病氣は私の一部です。病氣は私にとつて、「一番の友達」です。

私はこの本に出会い、カンナちゃんからたくさん感動をもらいました。カンナちゃんはどうな事にも負けずに、立ち向かつていく強さがあります。私もカンナちゃんのようなどんな人よりも強い人間になりたいです。

私はこの本に出会い、カンナちゃんからたくさん感動をもらいました。カンナちゃんはどうな事にも負けずに、立ち向かつていく強さがあります。私もカンナちゃんのようなどんな人よりも強い人間になりたいです。